

登録コード	E4440900	開講年度	2026				
授業科目	児童理解・生徒指導概論 A					担当教員	高橋 知音
英文授業名	Child Development and Student Guidance A					副担当	水口 崇
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・2 時限	対象学生	
講義室	教育図書 2 階講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 6 E カリ, 2 5 E カリ, 2 4 E カリ, 2 3 E カリ, 2 2 E カリ, 2 1 E カリ, 2 0 E カリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				児童・生徒の心身の問題や指導法について理解し、解決する方法を自ら考える力を養う。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				児童・生徒における心身の発達、発達上の問題を理解すると同時に、それらに対応する基本的な知識と技術を身につける。 生徒指導の意義や原理を理解している。 生徒指導の方法としての、個別指導、集団指導、家族・地域との連携について理解している。 現代の学校教育における生徒指導上の課題について理解を深め、指導方法について具体的に提案できる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、多文化協働、キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	1．児童期の心身の発達，学校教育と関連した問題などについて説明する。 2．児童期の心身の発達の問題，発達障害の問題について取り上げ，具体的な解決方法を紹介する。 3．生徒指導の考え方・方法や、特別なニーズのある児童・生徒について、講義、読書課題、ディスカッションを通して理解を深め、具体的な方法について学ぶ。						
(5)授業計画	第 1 回：前半ガイダンス 第 2 回：子どものことば 第 3 回：子どもの認知 第 4 回：子どもの遊び 第 5 回：子どもの友だち関係 第 6 回：子どもの異性関係 第 7 回：子どもの学校生活 第 8 回：後半ガイダンス & 「生徒指導とは」 第 9 回：児童生徒理解を踏まえた個別指導:小学校の例 第10回：児童生徒理解を踏まえた個別指導:中学校の例 第11回：現代的な課題への集団指導:いじめ、インターネット・スマホ 第12回：校則・体罰・しつけ 第13回：児童虐待の問題の理解:学校と家庭の連携 第14回：児童虐待の問題への対応:関係機関との連携 授業最終回に授業アンケートを実施します。						
(6)成績評価の方法	前半と後半の評価を合算して成績評価を行う 前半（水口担当分） 授業中の小レポートにより、みずからが考え、自己啓発に努めることができるかをはかる（20％）。 計2回の中レポートにより、授業を通して考えたこと、気づいたことについて問う（30％） 後半（高橋担当分） 授業レポート（15％） 読書課題レポート（20％） 他者の読後感想へのコメント（15％） 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀，89-80％ 優，79-70％ 良，69-60％ 可，59％以下 不可。						
(7)成績評価の基準	授業で解説した内容と同レベルの内容が書かれていれば、また自身の意見を明確に示していれば「水準にある」、より高いレベルの内容が書かれていれば「かなり上にある」、やや高度なレベルの内容が書かれていれば「やや上にある」、非常に高度なレベルの内容が書かれていれば「卓越している」。						
(8)事前事後学習の内容	毎回の授業時に指示される課題内容について、当該テーマの研究の背景や関連する事柄の調査、授業で学んだ内容を拡張する目的で、さらに広く深く文献研究を行うなど、事前・事後の取り組みを行い授業に臨むこと。 【後半】 ○事前学習 ・課題図書の指定範囲（e-ALPS上に指示）をしめきりまでに読み、感想、考えをe-ALPS上のフォーラムに書き込む。 ・主にコース別、10名前後のグループに分けられている。 ・同じグループのメンバーの意見・感想にコメントをする（2人以上）。 ○授業レポート(事後学習) ・授業にはパソコンを持参 ・授業参加にあたり、授業レポート用ファイルをダウンロード						

(8)事前事後学習の内容	・ディスカッションに参加しながら、レポートを作成。 ・完成したらe-ALPS上で提出。 ・しめきりは当日19:00 ・この授業は90時間の学修を必要とする内容である。従って,60時間以上の時間外学習が必要となる。
(9)履修上の注意	取り扱った内容のみでなく、予習や復習によって知識や見解を広げ、現代の教育問題について深く理解すること。 授業にはパソコンまたはタブレット端末を持参
(10)質問，相談への対応及び連絡先	tomonet@shinshu-u.ac.jp（高橋知音）、 mizutaka@shinshu-u.ac.jp（水口 崇）
【教科書】	文部科学省 生徒指導提要 ・pdfファイルで全文ダウンロード または ・生協で冊子を購入
【参考文献】	適宜紹介する